

月形が誇る樺戸博物館

日本遺産【本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～】

北海道遺産「北海道の集治監～北海道開拓を支えた近代遺産」

月形樺戸博物館は月形の歴史を中心に、矯正や北海道開拓の歴史を伝える重要な施設です。

先人の努力により町は発展しましたが、その陰には、囚人に対する過酷な労働を極めたという歴史を有しています。しかし、今、北海道遺産の選定、日本遺産の認定により、改めてその歴史が評価されています。

本紙では、樺戸集治監設置からの歴史、両遺産に認められた経緯そして博物館収蔵品の一部を紹介し、改めて評価された足跡をたどります。

樺戸博物館って

どんなところ？

■樺戸監獄の誕生から現在

町名の由来である月形潔は、未開の地であった月形周辺一帯が重罪人収容に適すると判断しました。また、石狩川沿岸は開発すれば水運の利が可能で、さらに農耕地に適することから、この地を集治監設置の地区として選定しました。これを機に町発展の歴史が始まります。

樺戸集治監は1881（明治14）年におよそ1年という驚くべき速さで建てられました。しかし、1886（明治19）年に火災で焼失し、再建されました。それが現在も残る本庁舎です。1919（大正8）年に廃監となり、樺戸監獄（1903年からこの名称）は、旭川監獄に事務が引き継がれました。本庁舎は廃監後から1972（昭和47）年まで町役場として使用され、翌年には北海道行刑資料館として資料を展示、公開する施設として利用されました。1996（平成8）年、名称を月形樺戸博物館に改められ、現在に至ります。

■過酷な囚人労働を伝える

明治維新後、政府はロシアの脅威に対抗するため、北海道を重要地としました。樺戸集治監の開庁後、囚人たちは、開墾や道路の開削などの労働に従事しました。特に道路の工事では、ブヨの襲来やクマ、オオカミにおびえながら、昼夜の突貫工事が進められました。満足な食事も与えられず、ケガ人や病人が続出。逃走を企てた者は斬殺される者もいました。こうして、北海道開拓で必要だった幹線道路が急ピッチで作られました。樺戸博物館は、こうした過酷な労働による北海道開拓の歴史の一部を見ることが出来ます。

■歴史が評価される

■日本遺産

2019（令和元）年5月20日、文化庁が日本遺産に「炭鉄港」（※）を認定しました。日本遺産は地域の歴史的魅力やその特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定するものです。

認定された「炭鉄



港」は本町を含め12市町45の文化財により構成されています。この「炭鉄港」の構成文化財の中に旧樺戸集治監本庁舎が含まれています。

※「炭鉄港」とは？

近代日本を築く基となった三都（空知・小樽・室蘭）を石炭・鉄鋼・鉄道・港湾というテーマで結ぶ広域的な取り組みのこと

■北海道遺産

2018（平成30）年11月1日、「北海道の集治監」北海道開拓を支えた近代化遺産」として、北海道遺産に登録されました。

登録されたのは、5つの集治監です。1891（明治24）年、樺戸集治監を本監として、分監に空知（三笠市）、釧路（標茶町）、網走、翌年に十勝分監（帯広市）が北海道集治監制定により、定められました。

この5つの北海道の集治監（監獄）の営みは、北海道の近代開拓における内陸開発を物語っており、本州の最高建築技術と文化が導入された近代遺産として評価され、選定されました。

収蔵品の紹介

本庁舎と地下廊下でつながっている本館は資料など500点余りが展示されています。

峰延道路の開削工事を詳細に記したジオラマ

月形から美唄、三笠方面へ向かう道路の峰延道路は囚人により造られたものです。当時、周辺は沼や沢でした。道路予定地の両側に排水溝が掘られ、その排水溝を水路として利用し、土砂や木材が運ばれました。悪路に丸太を敷き、その上に土砂を盛って道路が造られました。

また、囚中の囚人は頭髪の中央部が剃られています。これは同じ監房にいた囚人が逃走し、連帯責任として罰を受けたものを示しています。

博物館では、工事を詳細に記録した貴重な資料を見ることが出来ます。



インフラ整備の先駆けく木管水道の敷設

集治監には1000人以上もの囚徒が収容されており、飲用、雑用水にたくさん水を必要としました。しかし、水道はなく井戸を増設するほかありませんでした。井戸の工事は危険な環境で行われ、死傷者を出していました。

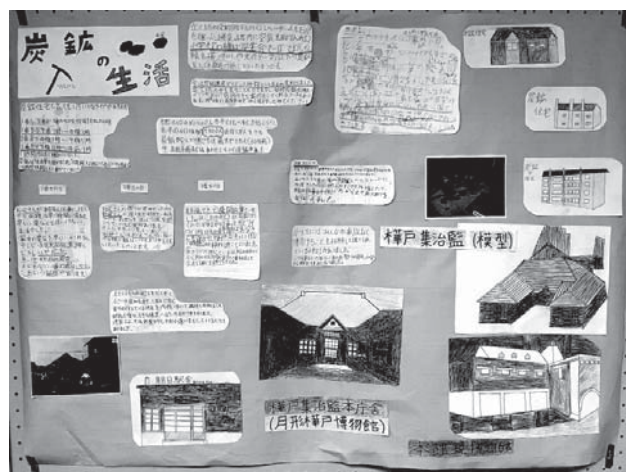
井戸水は不潔になりやすく、多くの囚徒に供給するには適しませんでした。集治監だけでなく、近接の市街地も含めて囚徒の手により、トドマツ製の



木管上水道が敷設されました。当時としては、水道の普及は貴重なものでした。1886(明治19)年、完成し、廃監まで補修しながら使用しました。この木管は道路の掘削や新築住宅建設時に発見されました。

郷土を学ぶ

樺戸博物館には、町内外の学校が見学に来ています。北海道開拓や空知特有の歴史、そして郷土である月形を学び、理解する学習が行われています。月形小学校4年生では、「炭鉄港」について学習しました。



▲月形小学校4年生「炭鉄港」の学習成果

歴史を顧みて、未来へつなげる

これまで博物館で解説員の仕事をしてきて、大切にしていることは、来館者とのコミュニケーションです。一方的な説明ではなく、来館者からも質問や発言を促し、もう一步踏み込んだ、より詳しい月形の歴史を伝えていきたいと考えています。また、事前に来館される方の地域を調べて、その地域と月形の関連性など見出し、触れるようにしています。さまざまな地域と月形は関連づいていますので、「歴史はつながっている」と来館者と話をすると、新しい発見に出会います。

来館者にはさまざまな世代の方がいらっしゃいます。幼児から高齢者まで、特に小中高生には、勉強に直結しますので丁寧、かつ、分かりやすく説明することや言葉の選び方にも気を付けています。

北海道は月形を中心に内陸開発や自給自足の農業が進み、開けていったと言えます。北海道の開拓の歴史をしっかりと伝えていく役割が月形樺戸博物館にはあります。「過去・歴史を見て、次の未来に向けてどう行動していくか」が歴史を学ぶことの意義だと思います。これから生きるヒントが歴史の中にあるはずで



樺戸博物館解説員
浦崎 清さん
(赤川1)

樺戸博物館は 3月20日(土) オープン

開館時間 9:30 ~ 17:00

※最終入館 16:30

入館料 小・中学生 100円(50円)
高校・大学生 150円(100円)
一般 300円(250円)

※()は団体料金、団体10人以上